

World Heritage News Letter

世界遺産ニュースレター 2021年6月《vol.44》

撮影：平井広行

1 夏山登山に向けて

<静岡県スポーツ・文化観光部 富士山世界遺産課>

2 【静岡県富士山世界遺産センター・富士宮市教育委員会共催展】

富士山表口の歴史と信仰 —浅間大社と興法寺—

<静岡県富士山世界遺産センター 学芸課教授 大高康正>

3 第12回富士山世界遺産セミナー

「富士山と文学—語り継ぎ、読み継ぎいかん—」

<静岡県富士山世界遺産センター 学芸課准教授 田代一葉>

4 <研究員コラム>

村山浅間神社・興法寺大日堂の石灯籠からの考察

<静岡県富士山世界遺産センター 学芸課主任研究員 山川志典>



静岡県富士山世界遺産センター



昨年の夏は、新型コロナウイルス感染症の影響により、富士山が開山されませんでした。

そのため、県は、今夏は安全・安心に登山していただけるよう、関係市町や山小屋組合、交通事業者等と富士山における新型コロナウイルス感染症対策について検討を行い、様々な対策事業を関係者と連携しながら実施していくことを前号のニュースレターでお知らせしたところです。

今回は、新型コロナウイルス感染症対策の中で、富士山を訪れる方に御協力いただく点についてお知らせします。

まず、「withコロナ時代の新しい富士登山マナー」の遵守についてです。

今年3月に、環境省、静岡県、山梨県、山小屋関係者等で構成される「富士山における適正利用推進協議会」では、15項目からなる「withコロナ時代の新しい富士登山マナー」を策定しました。

登山計画時などに留意すべき点として、①発熱や症状がある場合には登山を中止、②なるべく住居を共にしている人と少人数で登山、③混雑する日や時間帯を避けて登山、④山小屋に宿泊する場合には必ず事前に予約、⑤宿泊を伴わないご来光目的の夜間登山を禁止、⑥最新情報をよく確認し、安全に配慮した余裕のある登山計画を策定、⑦感染対策グッズ（マスク、密閉式保存袋、消毒液など）を準備 の7項目のマナーを定めました。

また、登山中に留意すべき点として、⑧同行者以外とはソーシャルディスタンスを確保、⑨必要に応じて、マスクや手ぬぐいなどで鼻と口をカバー、⑩登山道の渋滞時には交互登下山に協力、⑪呼吸を荒らげないように、無理のない自分のペースを維持、⑫同行者以外の物品の共有、杭やロープへの接触回避、⑬トイレや売店を利用した後は、必ず手指を消毒、⑭ゴミや吐物は密閉式の袋に入れて持ち帰り、⑮体調不良時や天候悪化時には速やかに登山を中止して下山 の8項目のマナーを定めました。

これらのマナーは、3密状態の解消や衛生管理の徹底において非常に重要なものですので、必ず遵守していただくようお願いいたします。

続いて、富士山入山前の検温・体調チェックについてです。







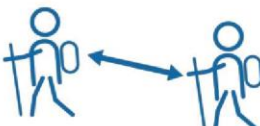





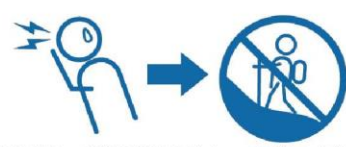
県では、体調不良者の入山を防ぐため、二合目乗換駐車場や五合目登山道入口等において、入山者への検温と体調チェックを実施します。検査員が検温と現在の体調や直近の行動履歴等についての質問を行い、問題のない方にはチェック済みの証明としてリストバンドを交付する一方、体調等に不安のある方には、同行者も含め、入山を中止し帰宅していただくよう要請を行います。

体調不良者が登山を行い山中で発症した場合、新型コロナウイルス感染症への感染防止対策を行いながらの遭難救助は非常に困難なため、平時より大幅に救助に時間を要するとともに、救助者へ大きな負担がかかってしまいます。体調が万全でない場合には、無理をせず、登山を中止していただくようお願いいたします。

以上についての詳細な情報は、県公式サイト「世界遺産 富士山とことんガイド」に掲載していますので、今夏、富士山へお越しの際には、必ず事前に確認をお願いいたします。

Withコロナ時代の新しい富士登山マナー

①から⑦は登山前（事前の計画）から、⑧から⑮は登山中（現地での行動）のご協力をお願いします。

<p>1 発熱・症状があるときは登山を行わない</p>  <p>平熱比 +1度以上 (37.5度以上) 息苦しい 咳がある だるい など</p> <p>※コロナ禍の救助活動は時間もかかり、救助者への負担も大。必ず万全の体調で ※持病がある方や年齢等で健康不安のある方は入山をやめましょう</p>	<p>2 なるべく住居を共にしている人と少人数で登山</p>  <p>※大人数の場合、少人数のグループに分かれて行動しましょう</p>	<p>3 混雑する日や時間帯を避ける</p>  <p>※「混雑予想カレンダー」を活用しましょう ※山頂からのご来光は密になりがちです 山小屋付近からもご来光を楽しめます</p>
<p>4 山小屋は必ず事前に予約</p>  <p>※山頂でご来光を見たい方は必ず予約をしてください ※富士山ではテント泊は禁止です</p>	<p>5 宿泊をとまなわない ご来光目的の夜間登山は行わない</p>  <p>※安全な登山と山頂での密回避のためです</p>	<p>6 最新情報をよく確認し、安全に配慮した余裕のある登山計画を立てる</p>  <p>※富士登山オフィシャルサイトを必ず確認 ※感染対策を行いながらの登山は平時よりも時間がかかります</p>
<p>7 感染対策グッズを準備</p>  <p>マスクや手ぬぐいなど ※1日2枚以上 密閉式保存袋 (エチケット袋など) ※ゴミ・吐物入れ用 ヘッドライト ※夜間ご位置を知らせて密回避 携帯用の手指消毒剤</p>	<p>8 同行者以外の人とはソーシャルディスタンスを確保</p>  <p>※距離を確保する際、登山道からは絶対に外れないこと（落石のおそれあり）</p>	<p>9 必要に応じて、マスクや手ぬぐいなどで鼻と口を覆う</p>  <p>登山道でのすれ違い 屋内の公共施設 距離が確保できないとき</p>
<p>10 登山道の渋滞時には交互登下山に協力を</p>  <p>※安全誘導員がいる場合は、その指示に従いましょう</p>	<p>11 呼吸を荒らげないように、無理のない自分のペースを維持</p>  <p>※激しい呼吸は唾液の飛沫が増えます ※無理な追い越しはやめましょう</p>	<p>12 同行者以外との物品の共有、杭やロープへの接触は避ける</p>  <p>※杭やロープは登山道を示すものであるため、絶対に触れないでください</p>
<p>13 トイレや売店を利用した後は、必ず手指消毒</p> 	<p>14 ゴミや吐物は密閉式の袋に入れて持ち帰る</p>  <p>※感染拡大の観点から密閉が必要で</p>	<p>15 体調不良時等は速やかに登山を中止して下山</p>  <p>※該当者との濃厚接触者も、症状の有無にかかわらず下山してください ※天候悪化が予測される場合、登山を中止</p>

詳しい情報はこちら

富士登山 コロナ対策

検索



富士山表口の歴史と信仰 —浅間大社と興法寺—

<静岡県富士山世界遺産センター 学芸課教授 大高康正>

△会期△

<前期> 令和3年7月10日(土)～8月9日(月・振休)

<後期> 令和3年8月14日(土)～9月12日(日)

※展示替えのため8月10日(火)～8月13日(金)の間、
企画展示室は休室します。

△開館時間△

<7月・8月> 午前9時～午後6時(最終入場は午後5時30分)

<9月> 午前9時～午後5時(最終入場は午後4時30分)

会期中の休館日：7月20日(火)、8月17日(火)

△概要△

かつて富士山西南麓の表口(大宮・村山口登山道)から富士山頂を目指した参詣者(道者)たちは、大宮の富士山本宮浅間大社と村山の富士山興法寺(大日堂・村山浅間神社)を拠点に信仰登山を行っていました。このふたつの拠点は古くから権力者の保護を受け、発展していきました。今回の企画展は、この浅間大社と興法寺の歴史と信仰をテーマに、静岡県富士山世界遺産センターと富士宮市教育委員会が共同開催する初めての企画展となります。

<前期> <後期> で一部展示作品の入れ替えを行います。<前期> では

令和2年春に修復を終えた国指定重要文化財の絹本着色「富士曼荼羅図」(富士山本宮浅間大社所蔵)を初公開

<後期> は修復後に作成した最新レプリカを展示します。文化財修復で鮮やかに蘇った作品をどうぞ御覧ください。

い。



第12回富士山世界遺産セミナー「富士山と文学—語り継ぎ、読み継ぎいかん—」

<静岡県富士山世界遺産センター 学芸課准教授 田代一葉>

日 時：令和3年8月8日(日・祝) 山の日

午後1時30分～午後4時00分(開場午後1時)

会 場：焼津公民館大集会室

(焼津市本町5-6-1 市役所アトレ庁舎3階)

内 容：1,300年以上にわたってさまざまに記されてきた富士山文学の中から、『伊勢物語』東下りに著された富士山を初めて見た都人の感動や、江戸の詩歌人が表現した富士山の姿、焼津ゆかりの文学者ラフカディオ・ハーンの、プレー山と富士山の登山体験に基づく作品の比較などについて、各専門家がわかりやすく解説します。

講演①：「平安文学の富士山」高野 晴代(日本女子大学名誉教授)

講演②：「江戸時代の人びとが表現した富士山」田代 一葉(静岡県富士山世界遺産センター准教授)

講演③：「ラフカディオ・ハーンと富士山 プレー山から富士山まで」

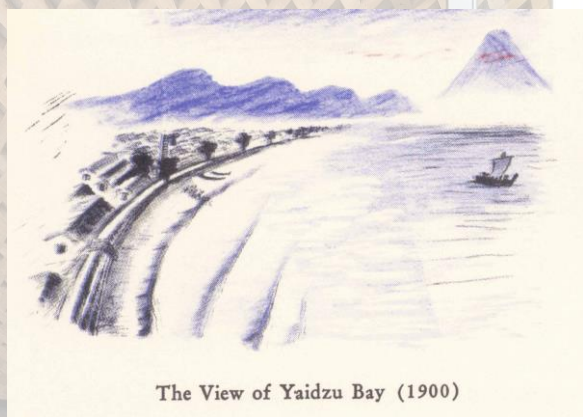
梅本 順子(日本大学国際関係学部特任教授)

定 員：60名(事前申込制・先着順) 受講料：無料 主 催：静岡県/焼津市

申込期間：令和3年7月4日(日)から令和3年7月31日(土)まで

申込方法：電話、FAX、またはメールにて、静岡県富士山世界遺産センターまで「氏名、住所、電話番号」を御連絡ください。なお、複数名の場合は、申込み人数は3名以内をお願いします。

(電話：0544-21-3776 FAX：0544-23-6800 E-mail:mtfuj-i-whc@pref.shizuoka.lg.jp)



The View of Yaidzu Bay (1900)

静岡県富士山世界遺産センターでは、世界遺産委員会における勧告を踏まえ、富士山周辺の市町と共に富士山巡礼路（登山道）の調査に取り組んでいます。平成29年度から令和2年度にかけては富士市・富士宮市と共に大宮・村山口登山道の調査を進め、『富士山巡礼路調査報告書 大宮・村山口登山道』（以下、『報告書』とします。）が刊行されました。

今回のコラムでは、『報告書』の「第五章 民俗分野の調査成果 第一節 明治以降の村山集落と村山浅間神社・興法寺大日堂」（232頁～）で触れた村山浅間神社・興法寺大日堂境内にある石灯籠（いしどうろう）について詳しくご紹介したいと思います。

興法寺大日堂の手前には、高さ210cm×横94cm×奥行94cmの石灯籠があります。この石灯籠には文字が彫られており、富士宮市教育委員会『村山浅間神社調査報告書』（平成17年（2005））の調査によると、正面に「興法寺 池西坊 浄蓮院」、左右に「惟時万延元年星次」「川柳村 藤誠院儀七 用沢村 大□院□兵衛 川島田村 神徳院利兵衛 西田中村 吉祥院吉兵衛 清子村 遠藤喜兵衛 御殿場町 万屋藤兵衛 石工 □屋平兵衛 庚申天孟秋大吉」となっています。

ここからは、奉納年と奉納者がわかります。まず、奉納された年は万延元年（1860）であることがわかります。この年の干支は石灯籠に彫られているように庚申です。庚申の年は60年に一度やってくる富士山の御縁年の年で、富士山を信仰する人びとにとって重要視されていました。よって、この石灯籠も庚申の御縁年を記念・意識して奉納されたと考えられます。

そして奉納者ですが、村山修験の中心的存在であった村山三坊の一つ池西坊と、川柳村、用沢村、川島田村、西田中村、清子村（清後村か）、御殿場町という現在の御殿場市や小山町に存在した村に住んでいた6名と石工の名前がみられます。ここからは、池西坊と現在の御殿場市や小山町の人びとが関わりを持っていたことがうかがえます。

これらの人物については、一体どのような存在であったのか、まだ調査が及んでいません。そこで、富士宮市教育委員会の調査結果を手がかりに改めて石灯籠を調査したところ、「藤誠院儀七」は「勝誠院儀七」、「万屋藤兵衛」は「亀屋藤兵衛」と読むことができました。このうち、儀七の居住地と考えられる川柳村（現在の御殿場市川柳）には少ないものの、隣接する中畑村（現在の御殿場市中畑）には「カツマタ」姓が多くみられます。これについて、『報告書』では「勝間田が多く」としていましたが、「勝又」の誤りです。一方、御殿場市教育委員会にお声掛けいただき、川柳村や御殿場口登山道について調査を進めるなかで、「勝又儀七」という川柳にゆかりのある人物がいたことがわかりました。

さらなる検証が必要となりますが、村山の石灯籠に名を刻む儀七が名乗る「勝誠院」という院号が「勝又」という姓に由来すると仮定すれば、「勝誠院儀七」は、勝又儀七という川柳にゆかりのある人物と同一人物である可能性を考えることができます。他の人物についても、居住地と考えられる村々での資料調査や聞き取り調査を積み重ねることで、これまで把握していた範囲を超える、富士山と直接に接していない村々を含んだ御厨地域（現在の御殿場市や小山町一帯）の村々と村山修験との関わりが見えてきそうです。